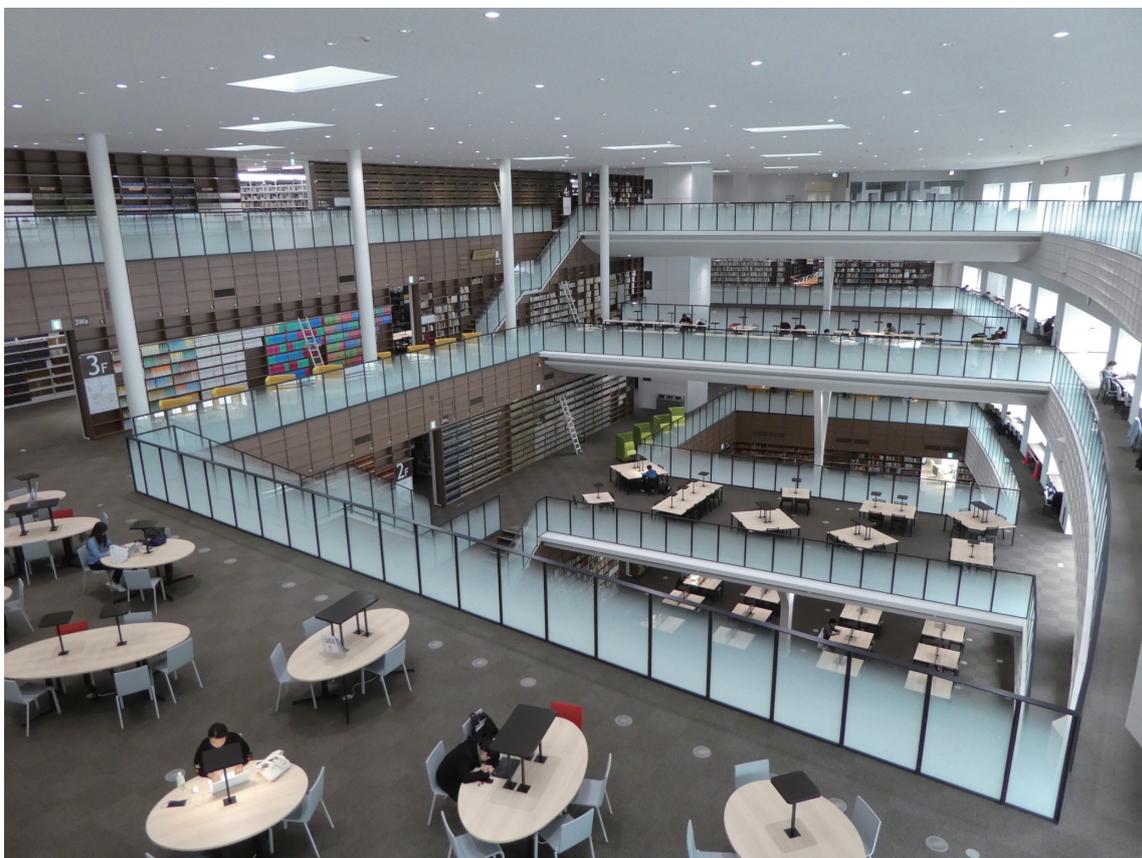


# 数理同窓会報

No. 11 (2019年11月1日)

九州大学大学院数理学府同窓会

<http://alumni.math.kyushu-u.ac.jp/>



伊都中央図書館

# 巻頭言

2005–2006 年の工学部を皮切りに、2009 年の数理・六本松地区、2015 年の理学部と進められてきました伊都キャンパスへの移転は 2018 年 9 月の農学部と文系 4 学部の移転をもって完了し、2018 年 9 月 29 日（土）に「九州大学伊都キャンパス完成記念式典」が挙行されました。移転に際し多大な御支援を賜りました同窓生の皆様に厚く御礼申し上げます。

伊都キャンパスは福岡市西区の丘陵地に位置し、単一キャンパスとしては国内最大の敷地を有しております。ゴルフ経験のない私が申し上げるのも変ですが、キャンパスは右ドッグレッグホールのような形状をしており、その中央を東西に走る約 2 キロの道路に沿って人文社会科学、全学教育、理学、工学、農学の建物群が並んでいます。Web で「九州大学伊都キャンパス ドローン」と検索して頂くと、移転完了に合わせて作成されたムービーが見つかると思います。キャンパスの全容を 7 分弱で把握できる簡易版もございますので、ご高覧頂けると幸いです。

さて、懸案であった九州大学同窓会連合会（会長：久保千春総長）との学生等個人情報の共同利用につきましては、2018 年 5 月 29 日に覚書を締結いたしました。これにより学生の卒業後の連絡先等を同窓会連合会から取得できるようになりました。同窓会連合会は本同窓会を含む部局別同窓会と地域別同窓会の連合体組織で、その詳細は <http://doso-rengo.jimu.kyushu-u.ac.jp/> にございます。正会員である 40 の同窓会一覧や、学生等個人情報の共同利用に関する覚書を同ホームページの「個人情報保護」からご確認頂くことができます。九州大学同窓会連合会への個人情報の提供を希望されない会員の方は、お手数ですが、[alumni@math.kyushu-u.ac.jp](mailto:alumni@math.kyushu-u.ac.jp) にご連絡下さいますようお願い申し上げます。

数理学府の移転から早や 10 年が経ち、多くの同窓生の皆様に伊都キャンパスを訪問して頂きました。ウエスト 1 号館（理学部等）や中央図書館等の立派な施設に驚かれる一方で、新旧キャンパスをどのように受け止めてよいのか戸惑われておられる同窓生の方もいらっしゃるようです。他方、旧キャンパスを知らない世代が増えていることも事実です。会員の皆様には、本会報等を通して、数理学府ならびに九州大学の現在・過去・未来に思いを馳せて頂けると幸いに存じます。今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年 11 月



数理学府同窓会 会長  
九州大学教授 川崎英文

## イーストゾーン探検

九州大学大学院数理学研究院 大津 幸男

2005年に箱崎キャンパスの伊都キャンパスへの移転が始まったのですが、数理は2009年9月に(現在の)情報基盤センターに移り、2015年9月の理学部の移転に伴い、ウエスト1号館へ引越しました。そして、2018年9月に箱崎キャンパスに残っていた文系と農学部の移転と共に伊都キャンパスへの移転が終了しました。

ここでは新しく出来たイーストゾーンを紹介します。JR 九大学研都市駅から、3, 4番線の昭和バスに乗ると、移転に合わせて新しく出来た「学園通り」の道路を進み15分ほどで伊都キャンパスに着きます。この道はそのまま伊都キャンパスを貫き志摩方面に伸びていますが、この道の向かって左側が数理のあるセンターゾーン・ウエストゾーンで、右側が新しく出来たイーストゾーン、つまり、文系地区になります。センターゾーンとイーストゾーンをつなぐ長さ60mのガラス張りの連絡橋、九大ゲートブリッジを越え交差点を右折すると、円形の椎木講堂と、その隣にそれより大きな半円状の中央図書館が高台の法面の一部から張り出すように立っています。文系の建物はこの図書館の屋根の上とその奥の台地の上にそびえ立っています。

中央図書館は地上4階建てで、中央図書館前のバス停近くから文系のキャンパスまで中央図書館の中が通路になっていて、そこを3階まで上がるとガラス張りの壁に囲まれた図書館が見えます。エントランスを通るまでは普通の図書館のようですが、そこを暫く進むと一気に景色が広がり1階から4階まで吹き抜けのアトリウム(中庭)が姿を現します。各階の壁に沿ってバルコニーが広がり、それらをつないで幾つもの橋が架かっていて、そこに閲覧用の机が置かれている様子に目を奪われます。アトリウムの書庫向きの面は一面本棚になっていて図書館らしさも兼ね備えています。もちろん残りの書庫部分も、開架、移動本棚に多くの書籍が保存されています。中央図書館での閲覧は書類に必要事項を記入すれば誰でも可

能です。また、図書館のエントランスの横には童夢カフェがあり、気軽に珈琲、軽食が取れるようになってます。

図書館を出て先程通ってきた通路を更に上がって行くと図書館の半円形の屋根部分に出ます。その前方に文系のキャンパスになるイースト1号館、2号館が立っていて、1号館の端の9階に展望展示室があります。もともとここには石ヶ原古墳があったのですが、それを潰してキャンパスが造成された経緯から、その資料の展示とともに展望室が作られました。展望室からは伊都キャンパス全体、近々の古墳、博多湾を鳥瞰することができ、なかなかの眺望です。平日の火曜・木曜の10:00~16:00に予約無しで見学できます。なお、椎木講堂では折々色々な催しが行われていますが、2階にはイトリートというイタリアレストランもあります。昼食にはパスタかピザにバイキング形式の前菜がついていて、こちらもお勧めです。簡単ですが、イーストゾーンを紹介しました。ぜひ、機会があれば尋ねてみて下さい。



おおつ ゆきお (1987年修士入学)

## 「AIMaP(アイマップ)」と「数理・データサイエンス教育研究センター」について

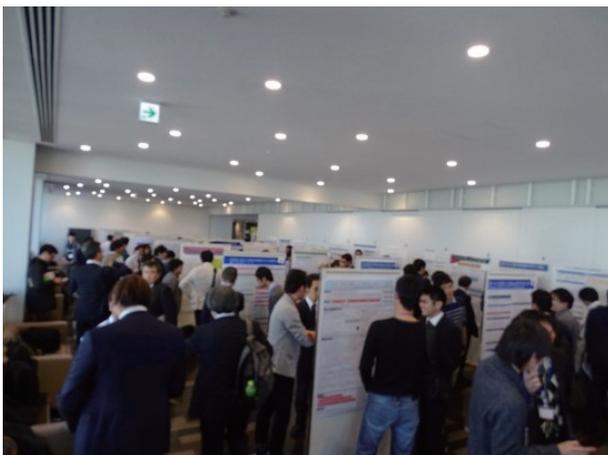
九州大学マス・フォア・インダストリ研究所 溝口 佳寛

### 1. 文部科学省委託事業 AIMaP(アイマップ)

数学イノベーションを推進するために平成29年度より5年間にわたって九州大学IMIが幹事拠点となり、全国12の協力拠点(数学・数理科学機関)と一体となって推進するための全国的なプログラムが文部科学省委託事業「数学アドバンストイノベーションプラットフォーム(略称:AIMaP(Advanced Innovation powered by

Mathematics Platform))」(<https://aimap.imi.kyushu-u.ac.jp/>)です。数学イノベーションにより期待される効果をわかりやすく例示すると「より少ないデータで多くのことが表現可能」、「変化が起こる前に兆しを検出し、事前の効果的対策が可能」、「産業現場における熟練者の経験や勘の定式化・定量化による技能の伝承や性能向上が可能」などが考えられています。この AIMaP の活動紹介は、昨年 2 月の IMI ニュースレター No.14 (<http://bit.ly/kaiho012>) に紹介しましたので、ここでは AIMaP 企画をひとつだけご紹介します。

日本数学会社会連携協議会は博士課程の学生を中心としたキャリアパス支援構築のための活動を産官学の協力で行っており、毎年秋に数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会 (<http://bit.ly/kaiho011>) を開催しています。2018 年度は、Yahoo! Japan 研究所長の田島玲氏の基調講演を始め企業研究所紹介、そして、若手研究者によるポスター展示などが行われました。参加総数は 226 人 (うち企業から 81 名) でした。また、62 名の若手によるポスター展示があり、その中から、10 名がベストポスターとして表彰されました。九大数理学府では Aksay Goel 君 (白井研究室)、秦希望君 (藤澤研究室) の 2 名が表彰されました。おめでとうございます (<http://bit.ly/kaiho010>)。



## 2. 数理・データサイエンス教育研究センター

平成 28 年 1 月に閣議決定された第 5 期科学技術基本政策においては、Society5.0 と呼ばれる超スマート社会の実現が謳われています。ここで描かれる豊かな未来社

会の実現のためには、数学に裏打ちされた AI(人工知能)等の高度なコア技術の開発が必要です。そして、その人材育成のためのリテラシーとしての数理・データサイエンス教育が求められています。この教育カリキュラムは、文系・理系を問わず、全ての学部の大学生を対象に開発され実施されます。そして、将来的には、高校生、中学生、そして、小学生の算数やプログラミング教育から接続されるリテラシー教育カリキュラムです。文部科学省は平成 28 年 6 月に数理及びデータサイエンスに関わる教育強化の取組を実践するセンター設置を計画しました。九大も拠点校として選定され、平成 29 年 10 月 1 日に数理・データサイエンス教育研究センター (<http://mdsc.kyushu-u.ac.jp/>) が設置されました。九大の数理・データサイエンス教育センターについては、今年 2 月の IMI ニュースレター No.17 (<http://bit.ly/kaiho016>) に紹介したので、ここでは省略します。拠点 6 大学はコンソーシアム (<http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/>) を作り、カリキュラム・教材・教育用データベースの分科会に分かれて方策を練っています。今年 2 月のコンソーシアム・ニュースレターには、本コンソーシアム形成の牽引役である有川節夫先生 (放送大学理事長・元九州大学総長) の数理・データサイエンス教育強化に関するインタビュー記事が掲載されています (<http://bit.ly/kaiho015>)。

また、内閣府における有識者らによる AI 戦略実行会議における議論を経て、AI・数理・データサイエンス教育を 3 年以内に大学全学部学生に必修化することを目標に環境整備が組織的に進められようとしています (<http://bit.ly/kaiho013>)。2019 年度からは、協力校が 20 校増えて全国展開が加速されます (<http://bit.ly/kaiho019>)。本教育企画は私たちが日常接している数学や情報科学の最先端研究を行う人たちへの教育ではなく、また、九州大学に入学した学生たちへの基幹教育でもなく、全国的なリテラシー教育です。現在、1 年間に大学に入学する学生総数約 60 万人のうち、約 50 万人が対象と考えられています。AI リテラシーとして、今までのリテラシー教育を再編・新設することを模索しています。九州大学は九州地区における大学と一緒

に数理・データサイエンス教育の波及を目指し、5月に最初の会合を行い、7月には2020年度カリキュラムの全国展開について議論しました。同窓生の皆様の身の回りで、AIリテラシーに関連して、お気付きのこと、ご意見などありましたら、いろいろと教えて頂ければ幸いです。



### 3. おわりに

AIMaPや数理DSの活動とともに、高校生への数学やデータ科学の啓発活動も行いました。数学・数理科学におけるさきがけ研究者らによるJST企画講演会である「数学キャラバン広がりゆく数学」をAIMaPの協力のもと九州地区で初めて2018年12月15日(土)に九州大学伊都キャンパスで開催しました(<http://bit.ly/kaiho017>)。約200名の高校生・保護者・先生に参加頂き、会場の稲盛ホールが、ほぼ満員となりました。また、同日、高校生課題研究ポスター発表会を課題を数学と情報に絞って募集して開催しました(<http://bit.ly/kaiho018>)。福岡県だけでなく沖縄県や大分県からも含む7件のポスター発表が集まり、約50名の高校生参加者と現役の大学院数理学府大学院生、数学キャラバン講演者らと質疑応答や討論が出来ました。

### 4. おまけ

昨今の企画に携わるようになって、国会で「統計教育や数理・データサイエンス教育に関する話題が出る！」などの噂も流れて来るようになりました。今年の2月の国会予算委員会答弁のYouTube動画をご紹介します。

<http://bit.ly/kaiho05-01>

(柴山文部科学大臣)

<http://bit.ly/kaiho05-02>

(安倍首相)



みぞぐち よしひろ (1983年修士入学)

## 数理学府での思い出

電気通信大学 川野 秀一

この度は数理同窓会報にこのような記事を書かせて頂くことを大変光栄に思います。私は2005年に九州大学理学部数学科を卒業した後、数理学府に入学し、2007年に修士課程、2010年に博士後期課程を修了しました。その後は、東京大学でポスドクとして働き、大阪府立大学で助教、講師として働きました。現在はまた関東に戻り、電気通信大学で准教授として働いています。専門分野は大学時代から一貫して統計学です。統計学の中でも統計的機械学習という分野に興味を持っており、この分野は数理最適化やコンピュータ科学との学際分野です。最近だと、AIやビッグデータ解析における基盤技術としても有名です。

さて、何を書こうかかなり悩んだのですが、ここはオーソドックスに私の数理学府での思い出を書きたいと思います。まずキャンパスですが、当時の数理学府はまだ伊都キャンパスへ移転しておらず、私は福岡市東区にある箱崎キャンパスに通っていました(博士後期課程3年生の半年だけ伊都キャンパスでした)。近くに福岡空港があるため、かなりの頻度で飛行機の音が大きく聞こえるときがあり、講義をされている先生の話が全く聞こえないという状況が多々ありました。あまりに大きな音のために、先生によっては、飛行機が通り過ぎるまで黙って講義を中断するという方もおられたと記憶しています。

上述しました通り、私の専門分野は統計学です。大学院での指導教員は小西貞則先生でした。当時、小西先生のところには多くの学生がいたため、修士課程は学部生、博士後期課程は修士課程の面倒を見る、といったある意味工学部の研究室のような一面がありました（もちろん小西先生が一番学生の面倒を見ていました）。このように研究室には多くの学生がいたため、理学部3号館4階（3階だったかもしれません）の1室を借りて、自主ゼミも盛んに行いました。アルゴリズムの本を輪読したり、個人で勉強した純粋数学と統計学の接点のことを発表したりと、本当によく学び充実した大学院生活でした。

数理学府では他にも様々な経験をしました。その中でも、日新火災共同研究のリサーチアシスタントと博士後期課程長期インターンシップは思い出深いです。日新火災共同研究のリサーチアシスタントは、谷口説男先生からお声掛けいただいたもので、損保数理に関してポスドクの方々と勉強し、共同研究を補助していくというものでした。私はこのリサーチアシスタントを通して、企業の中には数理的解決を必要としている問題がたくさんあるということに驚かされました。マス・フォア・インダストリ研究所がある現在となつては、このことは何も珍しくないのですが、当時はそういった研究所もなく、こういう話を聞くことは少なかったのです。そのような状況の下で、当時企業の方と共同研究できたことは大変勉強になりました。

もう一つは博士後期課程長期インターンシップです。数理学府の博士後期課程は、当時、数理学コースと機能数理学コースに分かれており、機能数理学コースには企業への長期インターンシップが必修でした。私は3ヶ月間東京にあるソフトウェア開発会社に行きました。そこでは、統計手法を用いてあるサービスの最適化を行う仕事に従事しました。最適化を行うプログラムは難なく作成することができたのですが、それを発表する時が大変でした。会社の中で数式を理解できる人がほとんどいないのです。できるだけ図を用いたり、使った統計手法がどのような特許に使われているかを調べたりと、ここで

はプレゼンテーションを工夫することを学びました。様々なバックグラウンドを持つ人達がいて、その人達に合わせてプレゼンテーションを作成する重要性をこの時期に知れたことは大変幸運でした。また、受け入れていただいた企業の方とはいまだに交友が続いており、時々飲みに行ったりしています。

以上、数理学府での思い出を書きましたが、思い出されるのはこのように良い思い出ばかりです。書きたいことはまだまだたくさんあるのですが、紙数も尽きましたのでこの辺りで失礼します。



かわの しゅういち（2005年修士入学）

## 令和は幸い晴れ晴れと

久留米工業高等専門学校 松田 康雄

「令和」が始まったので、平和を願って覆面算を考えました。

れいわは  
+さいわい  
はれはれと

答は下に書きました。

まつだ やすお（1979年修士入学）

答.

4 5 7 1  
+ 9 5 7 5  
1 4 1 4 6

## 箱崎・伊都での思い出

九州大学マス・フォア・インダストリ研究所 池松 泰彦

まずは簡単に私の略歴を述べたいと思います。私は、2004年に九州大学理学部数学科に入学し、修士課程、博士課程と進み、さらに、学術研究員として2018年3月まで14年間九州大学に在籍していました。その後、東京大学の情報理工学系研究科の特任研究員を経て、この度2019年1月1日付でマス・フォア・インダストリ研究所・先進暗号数理デザイン室に配属されました。九州大学を離れる際はもう二度と戻ってくることもないのかと考えていたのですが、たった9ヶ月で戻ってきたことに不思議な縁を感じます。この記事については、学年が一つ上であり、修士課程時代同じ院生室に所属していた同窓会委員の廣瀬先生からお話を頂き、書かせて頂いています。ここでお礼申し上げます。

私の現在の専門は暗号理論です。整数論、格子理論、楕円曲線、グレブナー基底などを使って、量子コンピュータでも破れないような暗号の開発、安全性解析などを研究しています。また、修士課程、博士課程時代は整数論、ラングランズ予想に興味があり、 $p$ 進群の局所テータリフトの解析などを研究していました。

さて同窓会報なので平成から令和に変わろうとしている今、思い出を色々書きたいのですが、文章力もないので箱崎キャンパス時代、伊都キャンパス時代のことを適当に綴っていきたいと思います。

### 箱崎キャンパス時代

2008年に数理学府修士課程に入学いたしました。箱崎キャンパス理学部一号館4階の院生室(8人ほどの部屋)を使用し、主に夕方から明け方にかけて勉学に勤しみ、六本松の自宅から自転車で50分ほどかけて通って

ました。朝の院生室では、荷物を置きにきた廣瀬先生とよく出くわしていました。ちなみに、六本松から箱崎に引っ越さなかった理由は学部生の頃のドイツ語の単位取得に問題があったのかもしれませんが。食事などは農学部食堂、ハロー、はこぎき、小麦治などをよく利用していました。この院生室は移転のため1年半ほどしか使用しませんでした。そういえば5月ごろの真夜中、院生室で勉強していると羽アリが大量に飛来し、窓の隙間から侵入してきたことが2年連続でありました。とても怖かったです。修士2年の夏頃、伊都キャンパスへの移転がありました。その時の博士課程の院生会長が、各院生室の引越し状況の確認や次の院生室の学生割り振りなどで頭を抱えていたのをよく覚えています。現在の箱崎キャンパスは売却に向けて取り壊しが進められていて理学部付近では元寇防塁の遺跡が発見されたそうです。

### 伊都キャンパス時代

修士2年の後期、博士課程、学術研究員の時代は伊都キャンパスで過ごしました。六本松から姪浜へ引っ越しJR、昭和バスを使い通っていました。よく風で電車が止まったり、年々バス代が高くなったりとの不満はありましたが、論文や本を読む時間としては良かったように思います。理系図書館3階にあった大部屋の院生室を使用し勉強していました。太陽の降り注ぐ大きな窓からの眺めは良く、行き詰まると外の風景をよく眺めていました。何年かその院生室に在籍したのですが、その後数論幾何系が集まっている小さな院生室に移りました。よく一緒に自主ゼミをやったり、昼はラーメン力、スシロー、夜は天天などでご飯を食べたりしたのが懐かしいです。ウエスト1号館への移転後は5階の院生室を半年ほど使用し、学術研究員になった後は6階の学術研究員室を使用していました。そして今年1月に東京から九大に戻りマス・フォア・インダストリ研究所に配属されてからは7階の助教部屋で日々研究しています。学術研究員の頃は息抜きとしてよく韓国の留学生の車で二見ヶ浦のカフェに連れてもらっていました。現在は学部時代免許を取らなかったことが悔やまれます。



図書館3階、元院生室からの風景

今年こそは免許を取得しようかなと思う  
今日この頃、今後とも  
数理学府・IMIの一員としてどうかよろしく  
お願い致します。



いけまつ やすひこ (2008年修士入学)

**〇できごと (詳細は数理学府、数理学研究院およびマス・フォア・インダストリ研究所のHPをご覧ください) (2016.07.01 ~ 2019.09.30)**

**◇藤澤克樹教授のチームが9期連続世界1位に**

藤澤克樹教授 (IMI) らの研究チームは、2019年6月18日 (国際会議ISC2019, ドイツ, フランクフルト) に公開された最新のビッグデータ処理 (大規模グラフ解析) に関するスーパーコンピュータの国際的な性能ランキングである Graph500 において、スーパーコンピュータ「京 (けい)」による解析結果で、2018年11月に続き9期連続 (通算10期) で第1位を獲得しました。

**◇神山直之教授が第8回藤原洋数理学賞奨励賞を受賞**

神山直之教授 (IMI) が第8回藤原洋数理学賞奨励賞を受賞しました。受賞業績は《離散最適化理論とその社会システムへの応用》です。

**◇塚本真輝教授が2019年度幾何学賞を受賞**

塚本真輝教授 (数理) が2019年度日本数学会幾何学賞を受賞しました。受賞業績は《力学系における平均次元の研究》です。

**◇広島文生教授が2019年度解析学賞を受賞**

広島文生教授 (数理) が2019年度日本数学会解析学賞を受賞しました。受賞論文は《数学的場の量子論における汎関数積分の応用》です。

**◇ICIAM2019での活動報告**

2019年7月15日~19日にスペインのバレンシアで開催された応用数学・産業数学の4年に一度のコンgres ICIAM2019において、IMIは以下のような活動を行いました。

- (1) Industrial Day 招待講演への企業研究者の推薦2名
- (2) 招待講演座長2件
- (3) ミニシンポジウム企画3件
- (4) 口頭発表12件 (うち大学院生2件)、ポスター発表1件

今回のICIAMは2023年8月20日~25日に早稲田大学を主管として東京で開催されます。IMIからも2名 (佐伯 修, 梶原 健司) が組織委員として運営に参加しています。

**◇神山直之教授が2018年度人工知能学会研究会優秀賞を受賞**

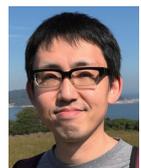
神山直之教授 (IMI) を含むグループが、2018年度人工知能学会研究会優秀賞を受賞しました。受賞論文は《利用者均衡を満たす混雑予測を用いた最適人流制御》です。

**◇神山直之教授、福本康秀教授を含む富士通ソーシャル数理共同研究チームが2018年度人工知能学会現場イノベーション賞「金賞」を受賞**

神山直之教授、福本康秀教授 (IMI) を含む富士通ソーシャル数理共同研究チームが、2018年度人工知能学会現場イノベーション賞「金賞」を受賞しました。受賞研究内容は《公平な保育所入所割り当てを瞬時に実現するマッチング技術の開発》です。

**◇神山直之教授が平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者を受賞**

神山直之教授 (IMI) が平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞しました。受賞業績は《社会システムデザインに潜む離散構造とその応用に関する研究》です。



#### ◇数理計算インテリジェント社会実装推進部門開設

数理計算インテリジェント社会実装推進部門 (SIMAC) は数学理論先進ソフトウェア開発室 (LASM) を発展的に改組することによって設立されました。大規模な産学連携によって数学理論の社会実装を推進し、Society 5.0 に基づく超スマート社会建設において我が国を牽引する役目を担います。具体的な活動は以下の通りです。

1: 社会的課題の数理モデル化と最新の計算技術の融合を目指す 2: 多くの企業との共同研究を行うことによって、IMI の産学連携活動を牽引する 3: 企業等の研究者を共同研究員あるいは大学院博士課程院生として積極的に受け入れる 4: 大学院生が産学連携活動に参加することで、多様なキャリアパスの拡大を狙う

#### ◇辻井正人教授が 2019 年 JMSJ 論文賞を受賞

辻井正人教授 (数理) が 2019 年 JMSJ 論文賞を受賞しました。受賞論文は《Exponential mixing for generic volume-preserving



Anosov flows in dimension three》です。

#### ◇小林真一教授が 2019 年度代数学賞を受賞

小林真一教授 (数理) が 2019 年度代数学賞を受賞しました。対象となった研究業績は《楕円曲線の岩澤理論の研究》です。

#### ◇FMFI 2018 Poster Session Award

2018 年 11 月 20 日に開催された、Forum "Math-for-Industry" 2018 において IMI 学術研究員の Nguyen Thi Hoai Linh さん、博士後期課程の朴炯基さん、修士課程の Sebastian Elias Graiff Zurita さんがエクセレントポスター賞を授与されました。

#### ◇博士後期課程の秦希望さんと Akshay Goel さんがベストポスター発表を授与

2018 年 11 月 17 日 (土) に開催された、日本数学会異分野・異業種研究交流会 2018 において博士後期課程の秦希望さんと Akshay Goel さんがベストポスター発表を授与されました。

#### ◇博士後期課程の朴炯基さんが Poster Presentation Prize を受賞

2018 年 11 月 12 日 (水)~16 日 (日) に開催された、国際研究集会 13th International Conference on Symmetries and Integrability of Difference Equations (SIDE13) で博士後期課程の朴炯基さんが Poster Presentation Prize を受賞しました。

#### ◇長田博文教授が 2018 年度日本数学会賞秋季賞を受賞

長田博文教授 (数理) が 2018 年度日本数学会賞秋季賞を受賞しました。対象となった研究業績は《長距離相互作用を持つ無限粒子系の確率力学とその剛性の研究》です。



#### ◇富士通研究所第 17 回ドコモ・モバイル・サイエンス賞受賞について

富士通研究所の社会システムデザイン方法論に関連する研究業績が第 17 回 (2018 年) ドコモ・モバイル・サイエンス賞社会科学部門を受賞しました。九大共同研究部門 (富士通ソーシャル数理共同研究部門) の成果が大きく評価されました。研究業績には、その他、富士通研独自のソーシャルイノベーション研究、早大と進めてきた社会シミュレーション研究が受賞業績に含まれております。

#### ◇松江要助教が日本応用数理学会若手優秀講演賞を受賞

松江要助教 (IMI / I<sup>2</sup>CNER) が、2018 年 6 月 29 日の日本応用数理学会総会において、「日本応用数理学会 2017 年度若手優秀講演賞」(2017 年 9 月 6 日 9 月 8 日 @ 武蔵野大学) を受賞しました。対象となった講演のタイトルは《有限進行波の精度保証付き数値計算》です。

#### ◇修士課程の立岩齊明さん、吉田明広さんがポスター発表優秀賞を受賞

2018 年 5 月 15 日に開催された、九大一理研一福岡市・ISIT 3 者連携シンポジウム 数理・AI が解く未来~計算科学の展開と期待~のポスターセッションにおいて修士課程 (当時) の立岩齊明さん、吉田明広さん (共に IMI 藤澤研究室) がポスター発表優秀賞を受賞しました。

#### ◇修士課程 2 年朴炯基さんベストポスター賞受賞

修士課程 2 年 (当時) でリーディングプログラム生の朴

炯基さんが、2017年12月7日～9日に釜山大学（韓国）で開催された研究集会「2017 PNU Math Forum」において講演およびポスター発表を行い、ベストポスター賞を受賞しました。

#### ◇ FMfi 2017 Poster Session Award

2017年10月24日に開催された、Forum "Math-for-Industry" 2017 において博士後期課程（当時）の Khongorzul Dorjgotov さんがベストポスター賞を、博士後期課程（当時）の Cid Reyes Bustos さん、博士後期課程の Akshay Goel さん、博士後期課程（当時）の山口達也さんがエクセレントポスター賞を授与されました。

#### ◇ 最適な保育所入所選考を実現する AI を用いたマッチング技術開発

株式会社富士通研究所、IMI 富士通ソーシャル数理共同研究部門と富士通株式会社は、人手によって数日かけて実施されてきた複雑な保育所入所選考において、最適な入所割り当てをわずか数秒で自動的に算出する AI を用いたマッチング技術を開発しました。

#### ◇ 量子計算機でも解読困難となる新しい原理に基づく公開鍵暗号を開発

高木剛教授（IMI）の研究グループは、量子計算機でも解読が困難な新しい原理に基づく公開鍵暗号を、東芝研究開発センター、北海道教育大学、産業技術総合研究所との共同研究で開発しました。この暗号は、量子計算機でも計算が困難と期待される非線形不定方程式の最小解問題に基づいて構成しており、この領域で有力な格子暗号と比較して同等またはそれ以上の安全性と計算効率性が期待できます。2017年8月16日から18日にオタワにて開催される国際学会 SAC 2017 で発表されました。

#### ◇ 糸島市・富士通研究所との共同研究が日経コンピュータ主催 IT Japan Award 2017 特別賞を受賞

IMI・（株）富士通研究所と糸島市が共同研究として実施している、AI 数理技術を用いた移住マッチングの実証実験が、日経コンピュータ主催の IT Japan Award 2017 特別賞を受賞しました。

#### ◇ 藤澤克樹教授が平成 29 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞

藤澤克樹教授（IMI）が、平成 29 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞しました。対象となった研究業績は《グラフ解析及び最適化ソフトウェアの開発と応用に関する研究》です。



#### ◇ 金子昌信教授が 2017 年度代数学賞を受賞

金子昌信教授（数理）が 2017 年度代数学賞を受賞しました。対象となった研究業績は《準保型形式と多重ゼータ値の研究》です。

#### ◇ 富士通ソーシャル数理共同研究部門が日本 OR 学会実施賞を受賞

日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞は、オペレーションズ・リサーチの実施において、すぐれた成果を上げた個人、グループまたは企業に対して授与される賞です。この度、IMI 富士通ソーシャル数理共同研究部門が第 41 回実施賞を受賞しました。1976 年度の実施賞創設以来、大学関連の組織が受賞するのは稀であり、2006 年度の南山大学 OR チームに続いて 2 件目です。

#### ◇ 國田寛名誉教授が瑞宝中綬章を受章

國田寛名誉教授が平成 28 年秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました。國田寛先生は京都大学大学修士課程を修了後、本学工学部助手、理学部助手、名古屋大学助教授を経て、昭和 52 年 9 月に本学工学部教授、平成 6 年 6 月に大学院数理学研究科教授に配置換、平成 12 年 3 月に定年退職されるまで、確率解析学の諸分野で多大な功績を上げるなど、数学の教育・研究に努められました。

#### ◇ 博士 1 年木村圭児さんが日本オペレーションズ・リサーチ学会から 2016 年度学生論文賞を受賞

博士課程 1 年（当時）木村圭児さんが日本オペレーションズ・リサーチ学会から 2016 年度学生論文賞を受賞しました。対象となった論文は《混合整数非線形計画問題を用いた AIC 最小化》です。

#### ◇ 野坂武史助教が 2016 年度日本数学会賞建部賢弘特別賞を受賞

野坂武史助教（数理）が 2016 年度日本数学会賞建部賢弘特別賞を受賞しました。対象となった研究業績は《カントルの代数トポロジーと低次元多様体》です。

## ○ 大学院数理学府担当教員の異動

2016 年度 (2016.07.01 ~2017.03.31)

## 転入等

IMI 助教・松江 要 (統計数理研究所から)  
 IMI 助教・Nguyen Dinh Hoa (豊田工業大学から)

2017 年度 (2017.04.01 ~2018.03.31)

## 転入等

数理准教授・高田 了 (東北大学から)  
 IMI 准教授・Pierluigi Cesana (IMI オーストラリア分室から)  
 IMI 助教・Daniel Mircea Gaina (北陸先端科学技術大学から)  
 IMI 助教・Dimetre Triadis (IMI オーストラリア分室から)  
 IMI 助教・可香谷 隆 (東京工業大学から)

## 転出等

IMI 准教授・吉良 知文 (群馬大学へ)  
 数理助教・野坂 武史 (東京工業大学へ)  
 IMI 助教・渋谷 敬史 (九州産業大学へ)  
 IMI 助教・Trinh Khanh Duy (東北大学へ)

## 転入等

数理助教・星野 壮登 (早稲田大学から)  
 IMI 准教授・鍛冶 静雄 (山口大学から)  
 IMI 助教・森山 卓 (新任)  
 IMI 助教・加葉田 雄太朗 (北海道大学から)  
 数理助教・並川 健一 (東京電機大学から)  
 基幹准教授・Brezina Jan (東京工業大学から)  
 IMI 准教授・富安 亮子 (山形大学から)  
 IMI 助教・池松 泰彦 (東京大学から)

## 転出等

数理教授・川島 秀一 (早稲田大学へ)  
 数理教授・杉山 由恵 (大阪大学へ)  
 数理助教・服部 新 (東京都市大学へ)  
 IMI 教授・高木 剛 (東京大学へ, 現在九大 IMI 客員教授)  
 IMI 教授・手塚 集 (退職)  
 IMI 准教授・二宮 嘉行 (統計数理研究所へ)  
 IMI 助教・Duong Hoang Dung (ウーロンゴン大学へ)  
 数理助教・関 行宏 (東京大学へ)

## 配置換

IMI 准教授・丸山 修 (芸術工学研究院へ)  
 数理教授・石井 豊 (昇進)  
 数理教授・増田 俊彦 (昇進)

## 転入等

数理教授・瀬片 純市 (東北大学から)  
数理教授・塚本 真輝 (京都大学から)  
数理助教・岡田 いず海 (東京理科大学から)  
数理助教・Ade Irma Suriajaya (理化学研究所から)  
数理助教・深作 亮也 (東京理科大学から)  
IMI 教授・河原 吉伸 (大阪大学から)  
IMI 助教・廣瀬 雅代 (統計数理研究所から)  
IMI 教授・Yuliy Baryshnikov (クロスアポイントメント, イリノイ大学)

## 転出等

数理教授・野村 隆昭 (退職)  
数理教授・綿谷 安男 (退職)  
数理教授・前園 宜彦 (中央大学へ)  
数理教授・隠居 良行 (東京工業大学へ)  
数理助教・横山 俊一 (首都大学東京へ)  
数理助教・村川 秀樹 (龍谷大学へ)  
IMI 教授・西井 龍映 (退職, 長崎大学へ)  
IMI 准教授・千葉 逸人 (東北大学へ)  
IMI 助教・森山 卓 (鳥取大学へ)

## 配置換

IMI 教授・阿部 拓郎 (昇進)  
IMI 教授・神山 直之 (昇進)

## ○同窓会だより

### ◇同窓会会計報告

2016年度 (2016.05.01~2017.04.30)

収 入		支 出	
事 項	金額 (円)	事 項	金額 (円)
前年度繰越金	2,960,591	会報作成費、郵送料	340,232
新入会費	210,000	住所調査はがき 返信郵便料	10,804
寄付	299,000	振込用紙印字	2,102
預金利息	5	翌年度繰越	3,116,458
合計	3,469,596	合計	3,469,596

2017年度 (2017.05.01~2018.04.30)

収 入		支 出	
事 項	金額 (円)	事 項	金額 (円)
前年度繰越金	3,116,458	名簿作成費、郵送料	625,016
新入会費	290,000	振込料金、切手	9,976
寄付	387,000	振込用紙印字	4,602
預金利息	2	翌年度繰越	3,153,866
合計	3,793,460	合計	3,793,460

### ◇同窓会活動報告

2018年 7月 11日 第17回幹事会  
2019年 11月 会報 No.11 発行

### ◇同窓会役員

名誉会長：長田 博文  
会長：川崎 英文  
副会長：岩瀬 則夫  
庶務幹事：大津 幸男  
会計幹事：高田 敏恵  
編集幹事：廣瀬 慧，池松 泰彦  
学内幹事：角 俊雄，瀬片 純市，渡部 善隆，木下 武彦  
会計監査：溝口 佳寛  
学外幹事：岩元 隆，松田康雄，正代 隆義，渋田 敬史，  
野瀬 敏洋

## ○寄付して頂いた方 (順不同・敬称略)

(2016.5.1 ~2017.4.30)

風間英明、福田亮治、栗山憲、松永弘道、清田武秀、田中義朗、樋口秋哲、内田博久、吉田守、陶山芳彦、柴田英企、井上順子、山口忠志、繁木伸孝、富崎松代、井上政志、鷺尾泰俊、安生健一、中尾寿康、丸山祐造、荒木由布子、川野秀一、木下健志、野町幸男、佐藤担、栄伸一郎、中尾充宏、館野有美、橋本邦夫、井川宏幸、岩本誠一、野瀬敏洋、田口龍治、山口富男、松田康雄、岡崎悦明、石原佑哉、濱井協、溝口佳寛、小松聡、岡田勘三、木本一史・知子、田中靖子、佐伯修、四宮光文、乗田貞孝、宗政昭弘、若山正人、岡本育久、金子昌信、関剛、長郷文和、兒玉正憲、上原明寿、溝田裕介、松井秀俊、中尾慎宏、山下慎司、高田敏恵、岡崎勝男、上野真太郎、宇草太一、川中進、津田仁裕、三原功也、高崎芳仁、宇治野広大、藤野孝彦、藤崎智子、山下正隆、西郷堯倫、前田良太、立岩斉明、新井大裕、佐藤征大、中西悠太、岩崎里穂、上田勇祐、小松慧、鍋島政孝

(2017.5.1 ~2018.4.30)

土屋卓也、佐藤担、吉田守、小田信行、福嶋幸生、平下幸男、池田信行、岩本誠一、山口富男、松永弘道、菅原民生、後藤昌司、有川節夫、繁木伸孝、清田武秀、元田康夫、吉永正和、林平馬、平山守、井川宏幸、水町徹、田中義朗、四宮光文、南部徳盛、井上浩一、安藤和博、乗田貞孝、石川眞昭、佐々木隆、富崎松代、藤原司、上江洲忠弘、上江洲香實、櫻井ふみ、新関章三、山崎隼之助、藤田敏治、岡田幸治、末吉豊、兒玉正憲、野町幸男、中村俊哉、鷺尾泰俊、内田博久、安田正實、栗山憲、和久井道久、吉田正章、川野秀一、木本一史・知子、加藤久子、中尾寿康、井上順子、江口正晃、宮本朋子、中尾充宏、張田珠潮、増本康隆、大石隆、櫻井幸一、弥永学、松田康雄、石橋一寿、宗政昭弘、安部隼平、原本和夫、樋口秋哲、金子昌信、木下健志、岡本育久、川崎英文、山下慎司、吉永正和、高木康瑛、佐藤真子、泉原健吾、京谷尚紀、堅田優希、吉田朋広、大窪南美、荒木和夫、川崎陸、重富尚太、野本慶一郎、甲斐充登、若松孝、中牟田浩司、石塚天、手野光、北山勝成、中邑聡史、今村拓未、山極直人、國岡大郁、山本恭平、濱崎遼、松田響、藤井幹大、毛利優太、山本諒、美作貴憲、松原祥

## ○卒業生の進路

2019年3月

### ◇修士課程

#### ★進学（博士後期課程）7名

九大数理（5名）

総合研究大学院大学

名古屋大学

#### ★教職6名

県立（福岡（3名）、佐賀）

私立（福岡、熊本）

#### ★企業27名

（株）SBI BITS、アドビシステムズ（株）、西日本旅客鉄道（株）、マツダ（株）、日本アイ・ビー・エム・サービス（株）、モバイルファクトリー、テクノステータサイエンスエンジニアリング（株）、（株）東芝、（株）NTT データアイ、（株）三井住友銀行、大和証券（株）、セントラルソフト（株）、（株）日立製作所、AGC（株）、（株）大広、朝日生命保険相互会社、（株）菱友システムズ、（株）富士通ビー・エス・シー、（株）ソルネット、博報堂DYメディアパートナーズ、セコム（株）、日本通運（株）、（株）日本入試センター、兼松エレクトロニクス（株）、全国共済農業協同組合連合会、IIJグローバルソリューションズ（株）、（株）電通九州

### ◇博士課程

#### ★研究職5名

学術振興会特別研究員（東京工業大学）、学術振興会特別研究員（九大数理）、東京大学ポスドク 九大IMIポスドク、九大COI学術研究員

#### ★企業への就職3名

（株）富士通研究所、日本電気（株）、（株）とめ研究所

2018年3月

### ◇修士課程

#### ★進学（博士後期課程）14名

九大数理（13名）

東京大学

#### ★教職2名

県立（香川）

私立（鹿児島）

#### ★企業26名

大和証券（株）、マツダ（株）、住友電気工業（株）、代々木ゼミナール、（株）富士通研究所、NSSLC サービス（株）、日産自動車（株）、（株）e-sia、（株）トラストテック、九州旅客鉄道（株）、（株）富士通九州システムサービス、（株）ベネッセコーポレーション、（株）日立製作所、パナソニックコネクテッドソリューションズ社、日本総合システム、（株）ヒューマンテクノシステム、富士通（株）、（株）クリック、九州電力（株）、伊藤忠商事（株）、NECソリューションイノベータ（株）、（株）両備システムズ、FMD K&L JAPAN（株）、

### ◇博士課程

#### ★研究職12名

名古屋大学ポスドク、大阪大学・ポスドク、九大数理（特定プロジェクト助教）、神戸高専、大阪大学（特任助教）、Telkom Univ.、九州産業大学・非常勤講師、福岡市大学・非常勤講師、学術振興会特別研究員（九大）、九大数理博士研究員（2名）、九大数理ポスドク

#### ★教職2名

岡山龍谷高等学校、

九州産業大学付属九州高等学校、

#### ★企業への就職1名

（株）サイエンス社

## ○数理同窓会ホームページについて

同窓会HP：<http://alumni.math.kyushu-u.ac.jp/>に数理同窓会ホームページ（HP）を公開中です。過去の同窓会報のPDFファイルが置いてあります。会報中の写真や図はカラーでご覧頂けます。HPの会員専用のページには、パスワードによるロックをかけています。パスワードはホームページ上でも確認できますが、ユーザ名：alumni、パスワード：20050801です。予告なく変更する場合がありますので、その際にご容赦願います。数理同窓会ホームページの内容充実に関してご意見等ございましたら、編集幹事までお気軽にご連絡ください。

編集幹事：alumni-editor@math.kyushu-u.ac.jp

---

## ● 編集後記

□平成 30 年 10 月に伊都キャンパスへの移転がすべて完了し，バスの本数が増えて便利になりました．また，理学部棟の近くにハニー珈琲ができ，気軽にスペシャルティコーヒーを飲めるようになりました（スペシャルティコーヒーの定義は <http://scaj.org/about/specialty-coffee>）．

ひろせ けい（編集幹事）

数理同窓会報 No. 11

2019年11月1日



発行：九州大学大学院数理学府同窓会

〒819-0395 福岡市西区元岡 744

九州大学 大学院 数理学研究院内

↑↑ [alumni@math.kyushu-u.ac.jp](mailto:alumni@math.kyushu-u.ac.jp) (e-mail)

Typeset by  $\text{\LaTeX}$

印刷・発送：社会福祉法人  
福岡コロニー